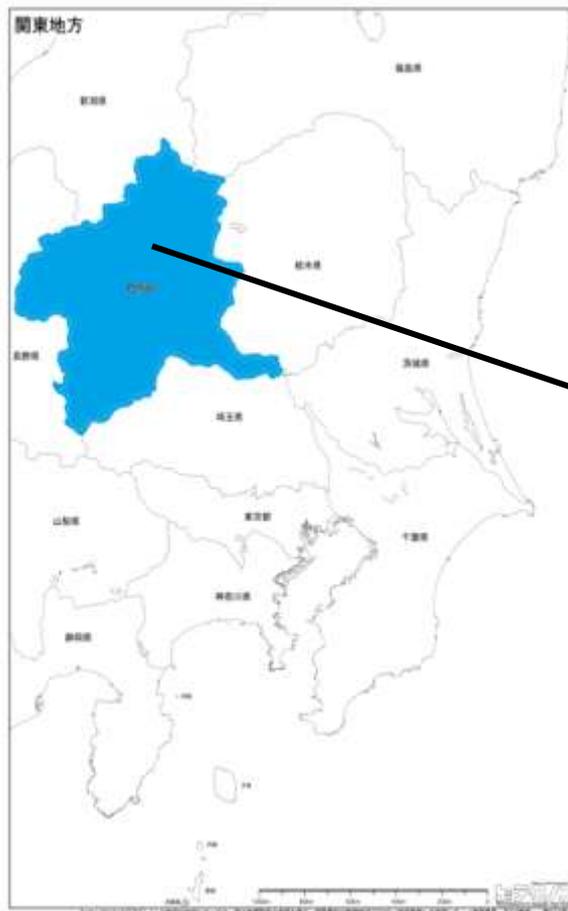


社会医療法人 輝城会

訪問看護ステーションまつかぜ

在宅医療連携拠点事業の取り組み

○ 田島 讓 小澤 勝子
平松 美枝子 清水 絵美



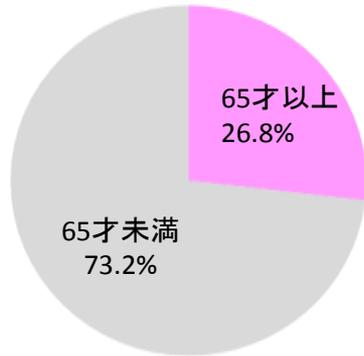
群馬県における 沼田市と利根郡の位置・面積



群馬県総面積	:	6363 km ²
各市町村面積		
沼田市	:	443.37km ²
みなかみ町	:	780.91km ²
片品村	:	392.01km ²
川場村	:	85.29km ²
昭和村	:	64.17km ²
合計	:	1765.75km ²
群馬県全体の		27%

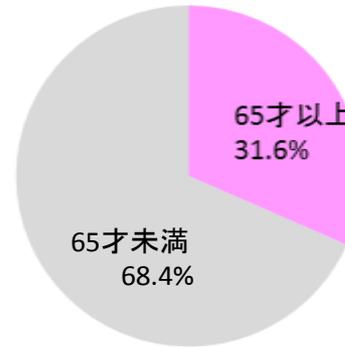
沼田市と利根郡町村の人口・高齢化率

沼田市



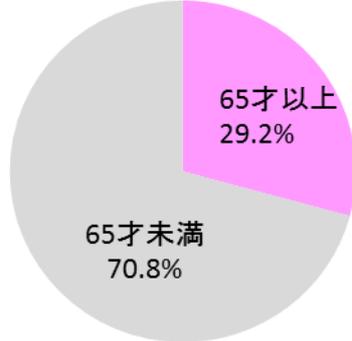
総人口 : 51,310 人
高齢者人口 : 13,752 人
高齢化率 : 26.8%

みなかみ町



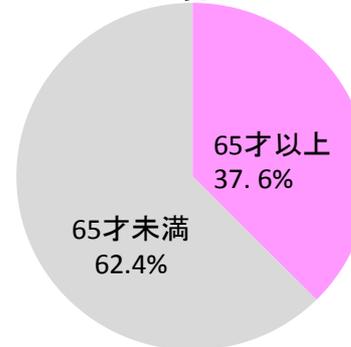
総人口 : 21,336 人
高齢者人口 : 6,746 人
高齢化率 : 31.6%

片品村



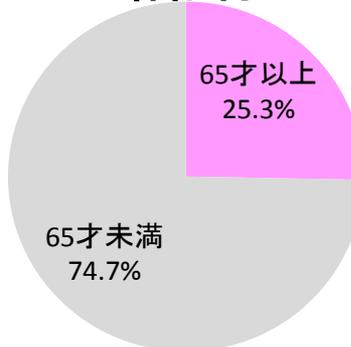
総人口 : 4,899 人
高齢者人口 : 1,431 人
高齢化率 : 29.2%

川場村



総人口 : 3,906 人
高齢者人口 : 1,468 人
高齢化率 : 37.6%

昭和村



総人口 : 7,612 人
高齢者人口 : 1,930 人
高齢化率 : 25.3%

参考資料

「利根沼田地区保健福祉の指標」 利根沼田保健福祉事務所H23.8月末現在²

○ 地域の在宅医療・介護の課題と目標

課題の抽出

在宅医療講演会に参加した医療・介護・行政関係者183名にアンケート調査

介護事業所・施設87ヶ所にアンケート調査

顔の見える関係づくり会議参加者75名にて多職種グループワーク

行政関係者会議参加した13名に質問形式

訪問看護ステーション意見交換会参加者26名に質問形式

課題

- ・ 往診可能な診療所が少ない
- ・ 診療所医師の高齢化
- ・ 訪問看護ステーション6ヶ所が市内に集中
- ・ 訪問看護ステーションの看護職員数が3~12名と差があり、半数の事業所は24時間対応が出来ない
- ・ 山間地は移動距離が長く緊急対応が出来ない
- ・ 訪問看護師を募集しても病院等との給料差やオンコール体制の精神的負担から採用が難しい

- ・ 介護職種からは医師、看護師は相談しにくいと思っている
- ・ 在宅医療、介護サービスを知らない人が多い

- ・ 在宅医療や介護サービスについて、病院や行政でも説明不足で不安がある

解決に向けての目標

医師等多職種間で顔の見える関係から連携、支援体制の構築

訪問看護師が在宅で頑張る介護関係者のよき相談相手になれる

- ・ 在宅医療・介護について相談出来る
- ・ 地域の在宅医療情報を知ることが出来る

取り組み

- ・ 多職種連携会議
- ・ 訪問看護ステーションの意見交換会

- ・ 専門職による在宅医療相談会
- ・ ニュースレター発行

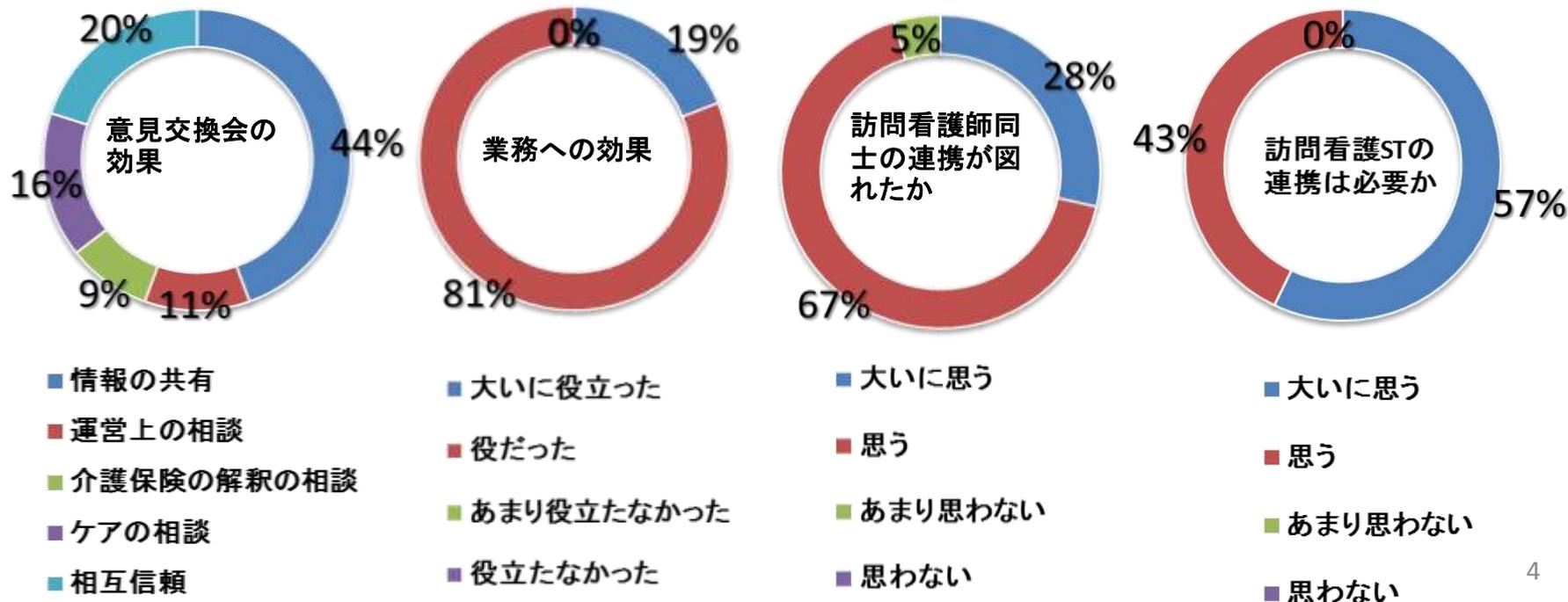
- ・ 在宅医療総合相談室
- ・ 市民公開講座
- ・ 行政関係者会議

○ 取り組み紹介

1. 訪問看護ステーションの意見交換会開催

目的	1. 地域で活動している訪問看護ステーション6事業所が顔の見える関係から、信頼関係を築き、困難事例や医療依存度の高い利用者への対応、連携が図れる。 2. 在宅医療の担い手として励まし合い、知識技術の向上を図り、医師等との連携が図れる。
日時と参加人数	平成24年9月24日(26名参加)・11月14日(18名参加)・平成25年1月18日(16名参加) 平成25年3月15日(19名参加) 開催時間 午後6時30分～午後8時
内容	・自己紹介・地域連携について・トピックス・事例紹介・専門職による相談会の参加依頼と相談会での内容報告 医療処置ケア勉強会・保健師等との連携・医療保険、介護保険の解釈と算定

＜平成25年2月 アンケート調査により得られた結果＞



2. 多職種連携

目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅医療、在宅歯科診療等に対し講演会等の開催により医療・介護・行政関係者の理解を深める。 2. 多職種連携、顔の見える関係を築く。 3. ICTを活用して円滑な情報共有をはかる。
◆ 平成24年7月28日 在宅医療講演会 医療・介護・行政関係者 183名参加	
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「最近の在宅医療の動向」 厚生労働省 在宅医療推進室長 平子 哲夫先生 2. 「終末期の在宅医療の経験23年」 日本在宅ホスピス協会 会長(小笠原内科院長)小笠原 文雄先生
◆ 平成24年11月27日 口腔ケア勉強会 医療・介護・行政関係者 92名参加	
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「チーム診療としての口腔ケア」 片野歯科医院 片野勝司先生 沼田クリニック歯科口腔外科 栗原崇文先生 2. 「ADL・QOLを考慮した口腔ケア」「入れ歯の手入れと口腔ケア体操」 歯科衛生士 鈴木かおり様 大谷富佐江様
◆ 平成24年12月17日 顔の見える関係づくり会議 医療・介護・行政関係者 75名参加	
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「在宅医療連携にかかる施策について」 群馬県健康福祉部医務課 金子貴氏 2. 自己紹介 3. グループワーク 「沼田市・利根郡で在宅医療を進めるにはどのような問題や課題があるか」
◆ 情報共有のためのICT活用	
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラウドを利用しコミュニケーションツールとして利用者の情報を共有する

〈在宅医療講演会の様子〉



〈顔の見える関係づくり会議・グループワーク〉



〈コミュニケーションツールの活用〉



3. 在宅医療従事者の負担軽減・支援

<p>目的</p>	<p>1. 介護系事業所や施設職員等が、医療依存度の高い利用者への対応や、ケア方法、疾患、内服等の相談に応じ、安心してケアの継続ができるよう支援する。 2. 相談会の開催により多職種間の顔の見える関係から信頼関係を築くことができる。 3. 在宅医療の情報発信や歯科診療等のネットワークの紹介、啓発、地域連携への支援を行う。</p>
<p>◆ 専門職による在宅医療相談会開催</p>	
<p>開催日時</p>	<p>毎月第3金曜日 午後5時～午後7時 平成24年10月より平成25年2月まで5回実施</p>
<p>相談対応職種</p>	<p>訪問看護師(6ステーション持ち回りで参加)、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、介護福祉士、在宅酸素・人工呼吸器メーカー</p>
<p>相談来訪職種</p>	<p>介護支援専門員、病院MSW、退院調整看護師、通所介護相談員、福祉用具相談員、行政職員</p>
<p>相談件数と内容</p>	<p>平成24年10月～平成25年2月まで 相談件数合計16件 病気について、在宅での麻薬の取り扱い方法、漢方薬の服薬方法、困難事例、トロミ剤の使い方、在宅酸素の取り扱い等</p>
<p>◆ ニュースレター「在宅医療連携拠点室だより」発行 平成24年10月～平成25年2月 第5号まで発行</p>	
<p>内容</p>	<p>事業所の活動内容、地域のネットワーク紹介、在宅医療研修会の案内、相談会や勉強会の案内 各病院・診療所・薬局・訪問看護事業所・介護事業所・介護施設・行政 合計235ヶ所へ毎月郵送</p>

〈専門職による在宅医療相談会案内〉



〈専門職による在宅医療相談会の様子〉



〈在宅医療連携拠点室だよりの発行〉



4. 地域住民への普及・啓発活動

目的	1. 住民が医療・介護の相談出来る場所があり、安心して在宅生活を送れる。 2. 在宅医療の情報を発信し地域や行政へ啓発活動する。
◆ 在宅医療総合相談室開設 曜日:月曜日～土曜日 時間:午前8時30分～午後5時	
相談件数	電話19件 来所2件(平成24年6月～平成25年2月末現在)
相談者	市民・病院MSW・包括支援センター相談員・外来看護師・介護支援専門員・通所介護管理栄養士
内容	1. 夫婦二人暮らし、認知症の夫の介護していた妻が脳梗塞で倒れたのでどうしたらよいか。 2. 難病疾患患者が自宅での最期を希望、どのようなサービスや体制があるか。等
◆ 市民公開講座 平成24年11月23日 市民234名参加 アンケート集計144件	
内容	「在宅医療推進・健康講座～病気や障害があっても住みなれた地域で暮らしたい～」 1. 在宅医療連携拠点事業の活動概要 2. 地域の訪問看護ステーションの取り組みと事業所紹介 3. 「狭心症・心筋梗塞の予防・診断・治療について」の健康講座 アンケート調査より:これから迎えるであろう明日に安心がもてた。地域の訪問看護ステーションの活動報告は良かった。等
◆ 沼田市・利根郡の在宅医療に関わる行政関係者会議開催 平成24年10月16日 関係者13名参加	
内容	1. これからの在宅医療について 2. 在宅医療を進めるにあたり、各行政としての課題 3. 看取りについて課題の共有(事例を通して)

〈在宅医療総合相談室のご案内〉



〈市民公開講座の様子のご案内〉



〈行政関係者会議の様子〉

○ うまく行かなかった点と効果的活動のポイント

うまくいかなかった点	効果的活動のポイント
民間事業所は在宅医療連携拠点事業の公共性が理解してもらえない	行政関係者等との会議や協力支援体制整備 在宅医療推進協議会の設立
郡市医師会との連携	在宅療養支援診療所・病院との連携 医師の意識改革 訪問看護職員の確保と24時間対応の支援
行政関係者、保健師、包括支援センター等との連携が十分にはかれない	顔の見える関係づくり会議の継続 事例検討会への参加 地域ケア会議及び地域包括ケアシステムにむけての支援
病院内勤務の医師、看護師等の在宅医療や介護サービス情報不足	意識改革への取り組み 退院調整の助言など積極的な働きかけ 職能団体への働きかけ
地域住民は在宅医療・歯科診療などの情報を知る機会が少ない	民生委員との情報交換会 公民館など活用し相談会・健康講座の開催
地域で活動する協議会やNPO団体等との連携	協議会や研修等への積極的参加 ボランティア参加

○ まとめ

1. 訪問看護ステーションが在宅医療に身近な存在として、この地域での在宅医療の多くの問題について考え、問題提起する事ができた事は、在宅医療推進の確実な一步を踏み出したと考える。
2. 訪問看護ステーションの立場から医療関係者や、介護サービス事業所等との連携が図れたことは、今後この地域で在宅医療への理解とかかりつけ医の積極的参加により、さらなる多職種連携が図れる体制のきっかけ作りが出来たと考える。
3. 本事業は民間事業所で受託をしたが、当初は公共性を問われることが多く、在宅医療連携拠点事業を理解してもらい事が難しかった。今後は、郡市医師会や行政関係者との面としての連携を図っていくことが課題であると考えている。